

主 題：神に望みをおいた敬虔な婦人たち  
聖書箇所：ペテロの手紙第一 3章1節－6節

きょう5月10日は母の日ということで、母について一緒にみことばを学ぶことができればと思います。ソロモンは箴言18：22で「良い妻を見つける者はしあわせを見つけ、主からの恵みをいただく。」と記しています。この幸せをもたらす「良い妻」についてペテロはきょうのテキストⅠペテロ3章の中で教えます。妻であるあなたが主に大いに祝福を受けるため、またあなたの家庭が祝福されるために重要な教えを見ていきたいと思います。

#### A. 「服従する妻」 1－2節

ペテロはまず1節で夫に従順する妻について教えを記しています。「同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。」、1節は「同じように」ということばで始まっています。というのは、既にペテロは2章の中でこの「服従」に関して教えてきたからです。2：13で国民はその行政に従うこと、また18節ではしもべはその主人に従うことを教えてきました。そしてこの3：1からそれと「同じように」、今度は妻に対して夫に「服従」することをペテロは教えるのです。

##### 1. その意味 1節

これはどういう意味なのでしょう？まずこの「服従しなさい」ということばは、辞書を見ると「他の人に服従する」、「だれかの指導や指示、また指図に従う」、そんな定義を与えますが、ティンデールの聖書註解をお書きになったウェイン・グルーデム師はこのことばをこんなふうに定義します。「結婚においてあなたの夫の権威に指導に進んで服従することを意味する」と。しかし、私たちがこの「服従」ということばを考える時に注意すべきことは、妻は夫の奴隷ではないということです。妻が夫に「服従」するのは、夫に比べて妻の能力や霊性が劣っているからではありません。ではどうして「服従」するかというと、それが主から与えられた役割だからです。夫は一家の長、一家のリーダー、また妻は夫の助け手としての役割が与えられています。ですから、妻はその夫に、そのリーダーシップに従っていくのです。

確かに日本語を見ると、「服従しなさい」と、命令形であるかのように思うのですが、これは命令ではありません。妻の選択の話です。みずからがそのような選択をしていくようにと願って記されています。というのも、この「服従しなさい」ということばは「下に」ということばと「配置する」ということばの合成です。ですからその人の下にみずからを置くという意味になり、妻がみずから進んで夫の下に自分を置くということです。そのリーダーシップにみずから進んで従っていかうとする、そういう意味を持ったことばです。このことばはもう十分ご理解いただいたと思うのですが、新約聖書の中には38回出てきます。恐らくその一つが皆さんの理解をより深く助けてくれると思います。ルカ2：51に「それからイエスは、いっしょに下って行かれ、ナザレに帰って、両親に仕えられた。」とあります。この「仕えられた」ということばが今我々が見ている「服従」するということばと同じです。イエス様は自分自身から両親に従っていかれた。ですからこれは命令ではなくて、みずから進んでそのようになしていくことであると。それがまずこのⅠペテロ3：1でペテロが教えることです。

##### 2. その条件 1節

これが神様が望んでおられることだということを知れば、私たち主を愛する者はそのように生きていきたいと願うはずですが、しかし、実践するのが大変難しいことはもう言うまでもない。あなたはそれを十分にご存じだと思います。だから私たちは神の助けを必要とするのです。なぜかという、この後に大変難しいことが記されています。意味はわかりました。では「自分の夫に服従しなさい。」と言った時にどのような条件が書いてあるか見ていただくと、こういう夫だったら服従しなさいとか、こういう夫でなければ服従しなくていいとかいう条件が記されていないことにお気づきになると思います。つまりどんな夫であっても彼に「服従しなさい」ということです。確かに利己的な夫であったり、妻への思いやりが乏しい夫、霊的でない夫や霊的リーダーでない夫、リーダーシップを発揮できない夫、優柔不断な夫、尊敬できない夫、多分リストは続くと思います。たとえそうであったとしても「服従しなさい」と、ペテロは勧めるのです。

確かに、夫には一家の長として霊的に成長する責任があります。もちろん霊的成長というのはすべてのクリスチャンたちが神様から望まれていることです。ひとりひとり救いにあずかった者たちが霊的に成長することは神のみこころです。しかし、妻であるあなたが覚えるべきことは、あなたは彼の成長を助けることができるということです。ではどうしたらいいか？みことばはあなたの「服従」によってそれが可能だと教えます。なぜそれが可能かと言うと、これが主のみこころだからです。ということを感じ

えるならば私たちはこう言えます。もしあなたが夫に不従順なら、夫の成長を妨げている可能性もあるということです。なぜなら主のみこころに従わなければ、そこに主の祝福がないことを私たちは知っています。覚えなければいけないことは、妻は夫の「助け手」だということです。創世記2章で最初に造られたアダムが神が定めた働きを行い始めた時、主はこう言っておられます。18節「人が、ひとりでいるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」と。つまりアダムが働きをなすためには「助け手」が必要であったということです。そして2：24に「ふたりは一体となるのである。」とあります。つまり主の栄光を現し続けるために、またそれぞれが満たされるためにお互いが必要だということです。お互いが主の教えに従い、主の定められた役割を忠実に、かつ助け合いながらし続ける時に二人は満たされ栄光を現すことができると教えます。だからだれかのせいではないのです。私たちの責任は、まず自分自身が主が教えてくださっていること、主が命じておられることを、その責任をしっかりと果たしていくということです。

ところが皆さんご承知のように、このアダムとエバの間に罪という問題が生じました。彼らが罪を犯すことによって、悲しいことに神が意図された役割を無視し、神のみこころに逆らう選択をするようになったのです。妻が「助け手」であることに満足せず、家庭のリーダーになろうとする。だから夫婦はそれぞれの役割を忘れてはいけません。夫は家庭のリーダーであり、妻は彼を助ける「助け手」とある。悲しいことに神が定められた役割というものを全く無視して、自分たちの思いのままに生きる、その生き方を罪が助長するのです。だからそれぞれの役割をしっかりと覚えなければいけない。ペテロもここで、妻は夫の「助け手」とあると、その役割について改めて教えます。だからと言って話し合っただけではいけないとか、二人で相談し合っただけではいけないということではありません。話し合っただけ、祈り合っただけ、そしてその上で夫が決めたことにみずからの意思をもって妻は従っていかなくてはならないのです。それがみことばが私たちに教えてくださっていることです。

### 3. その目的 1節

#### 1) 未信者：「みことばに従わない夫」

ペテロはあなたの夫がたとえ未信者であったとしても、主イエス・キリストの救いを拒んでおられる夫であったとしても「服従しなさい」と教えています。大変な驚きです。でも皆さんが覚えなければいけないのはそれは主のみこころだということです。「たとい、みことばに従わない夫であっても、」と続きます。これはイエス様を信じていない、救いを拒んでいる人の特徴を表しています。「従わない」ということばは「信じない」という意味があります。ですから神の教えやこのすばらしい救いのメッセージ、福音に関して無関心であり、それに従っていかないと。「従わない」という動詞が現在形で記されているので継続して神の教えを、この救いを信じようとせず、それに従っていかないと、たとえそういう夫であったとしても「しなさい」と。

#### 2) 伝道

なぜかという、「服従」の目的はあかしです。ここにあるように、「たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。」と続きます。「神のものとされるようになるため」、これは「人を神の国に入れる」ということです。日本語は非常に長いのですが、ギリシャ語は一つの単語です。彼らが神の国に入れられるためにという意味です。つまり救いの話です。ですから「たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって」救われるようになるためだと。

#### (1) 無言のふるまいで

ではどんな方法をペテロが勧めるかというと、「妻の無言のふるまい」と書いてあります。これは服従することは不満だけど、やりたくないけれども、やれと言われているからやるのだ、そういう思いを持った行動の話ではありません。そういう思いを抱きながら行動することではない。なぜならそういう思いが心にあるならば、無言ではいられないからです。目は口ほどに物を言うと言われるように、口からことばが発せられていなくても、目から怒りが出ていたり、失望があったり、間違いなく目が物語ります。そんなことを教えているのではないことは皆さんおわかりだと思います。なぜならこの「無言のふるまい」の「ふるまい」ということばは「生き方」とか「ライフスタイル」、「暮らしぶり」のことです。2節にも出てきますが、神を愛する者、神を敬う者としての生き方、暮らしぶりのことです。ですから、この婦人たちは、主がそれを望んでおられることだから、主がこの「服従」をお喜びになるから私はそのように生きていきたいと。もちろんそのためには主に祈りながら助けを求め続けることが必要だというのは言うまでもありません。特に理不尽な要求をされる時もあります。でもそれが罪でない限り私たちは従っていくのだとペテロを言うのです。主の助けをいただきながら喜びを持って従おうとするのだと。

ペテロはここで非常に大切な未信の夫に対するあかしを言います。ここで言われているのはことばで

はなくて行いです。時に行いはことばよりも力があるからです。考えていただきたいのは、どんなシチュエーションであっても、あなたや私が主がお喜びになることを行う時に、主はあなたを通して働かれるということです。だから私たちにとって大切なのは、今ここでは妻が夫に対してどのように歩んでいくのか、その役割の話を教えます。未婚であろうと、我々がどんな状態であろうと、大切なことはすべての信仰者は主がお喜びになることを行っていくならば、主はあなたを通して働きをなしてくださるということです。ここでも教えられていることは、妻が主を愛するゆえに、主に従いたいと願うゆえに、主のみこころを行っていく時に主が彼女を通して働きをなすのだと言うのです。我々はこの福音宣教が神のみこころであることをよく知っています。主が我々に与えられた使命であることを信じています。みことばを宣べ伝えなさいと言うのです。全世界へ出て行って福音を語りなさいと言うのです。確かに私たちはことばをもって、キリストの福音を、神の真理を語るのです。

## (2) 賢明なふるまいで：コロサイ 4：3

でも同時に行いをもって神のすばらしさをあかしするようにとも教えられています。コロサイ 4：5には「外部の人に対して賢明にふるまい、機会を十分に生かして用いなさい。」と。この「ふるまう」というのは「歩き回る」とか「生活する」、「日を過ごす」という意味です。ですから「外部の人に対して賢明に」生活しなさい、日を過ごしなさいと。つまり我々がどんなふう生きるか——。行いによるあかしの影響力の話です。我々が主のみこころに従って生きていくならば、先ほどもお話ししたように主が私たちを通して働いてくださる。別の言い方をすれば、あなたのうちにいて働いておられる生ける神を人々の前で明らかにする。この目に見えない神様をあなたは人々の前で可視化するのです。だからみことばは私たちに主のみことばに従って生きなさいと言うのです。

### ◎ 彼女の特徴：

少し例を言いたいと思います。最初に見たように箴言の中でソロモンが教えるのですが、31：10－12「しっかりした妻をだれが見つけることができよう」、この「しっかり」という名詞はほかの箇所では「財宝」や「力」、「軍勢」という意味で使われています。旧約聖書の中で316回出てきます。このことばが女性に使われた時は、「高貴な」とか「徳の高い」という意味になります。ですからこの「しっかりした」と訳されていることばは、英語の聖書では「非常に優れた」とか「すばらしい」、「また尊敬すべき」、「立派な」と訳しています。口語訳聖書でもここは「賢い妻」、文語訳は「賢き女」と訳しています。本当に神の前に尊敬に値する人。なぜ彼女が賞賛されているのかということ、その理由が箴言 31：11－12に出てきます。「夫の心は彼女を信頼し、彼は『収益』に欠けることがない。彼女は生きながらえている間、夫に良いことをし、悪いことをしない。」と書いてあります。「生きながらえている間」、彼女がこの地上に生きている一生の間ということです。新改訳 2017はこの箇所を「一生の間」と訳しています。彼女は忠実に夫を助け励まし続けているのです。だから賞賛されるのです。ここにあるように「良いことをし、悪いことをしない」のだと。彼女は夫を助け励まし続けているのです。箴言 12：4で「しっかりした妻は夫の冠。恥をもたらず妻は、夫の骨の中の腐れのようなだ。」とソロモンが言っています。「夫の冠」というのは夫が彼女のことを誇りとし、彼女のことを自慢することです。「骨の中の腐れ」というのはその夫の内側、心に痛みをもたらずということです。ですからこの箴言の中でソロモンが言った「しっかりした妻」、尊敬すべき、すばらしい妻というのは、みことばが教える与えられた役割を正しい心をもって行い続ける者です。

ルツというひとりの信仰者に対しても同じことばが使われています。ルツ記 3：11でボアズが「この町の人々はみな、あなたがしっかりした女であることを知っているからです。」と言います。興味深いですよ。夫を失ったこの異邦人の女がナオミと一緒にこのイスラエルにやって来るのです。ルツはナオミに従っている。それを人々が見ているのです。そして町じゅうの人々があなたはしっかりと、尊敬すべき、立派な女性であることを知っている。つまり行いというものが大変力強いあかしだということです。ですから妻だけに限ったことではありません。すべての信仰者に言えることは、主の教えに忠実な者を確かに神は祝され、神は確かにお使いになるということです。ここでペテロはあなたたちはこういう務めをいただいているゆえに、その務めにおいて忠実でありなさい、これは神がお喜びになることだ、あかしのためにもやりなさいと教えます。

## 4. その結果：神を恐れる生き方を見る 2 節

その結果、2 節「それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るから」だとあります。どうして「服従」が夫に対する力あるあかしとなるのかを教えてください。まず、「見るからです」ということばが出ていますが、原語ではこの「見るからです」ということばが文頭に出ています。この動詞で始まっています。なぜかという、強調するからです。この「見る」というのは「注意して見る」とか「観察する」ということです。何となくちらっと見るのではないのです。じっと見て観察していると言うのです。では夫は妻のうちに何を観察して見るのかです。それはここにあるように「あなたがたの、神

を恐れかしこむ清い生き方を」彼らは観察して見ると言うのです。「神を恐れかしこむ」というのは神に対する畏敬の念や神に対する尊敬の念の話です。つまり夫は、妻が確かに神を恐れていることを妻を観察してわかるのだと。それこそ私たちが目指した生き方です。「神を恐れ」ながら生きるということです。

### 1) 神様に喜んで従う者

私たちが主の教えに、主のみこころに喜んで従うのは、私たちが心から主を愛し、敬っているからです。もし我々が神のみこころに逆らうのであれば、従わないのであれば、それは主を悲しませるからです。また同時に主を恐れているから我々は清く生きていこうとするのです。なぜならば、罪には必ず結果が伴うからです。罪は栄光を汚すからです。神のみこころだから従う、神を愛するから従うと。常にあなたのすべてを見ておられる主を覚えて生きていこうとするのです。これがまさに主を恐れた者の生き方なのです。なぜなら私たちがわかっていることは、神は我々の心の隅々までごらんになっておられる。私たちがどんな動機でしているかをご覧になっておられる。私たちがすることが正しい心からなされているのか、それとも言われたから、人の目があるからしているのか——。夫は救いにあずかった妻を観察するのです。そしてこの妻が確かに「神を恐れ」るゆえに歩んでいること、すべてのことをなしていることに気づくのです。

この「神を恐れ」ということの理解を助ける出来事が聖書の中にあります。アブラハムがイサクをささげる時の話です。100歳のアブラハムに約束の子が与えられた。もうかけがえのない子であったことは想像がつかます。でも皆さんも覚えておられるように、主は彼にその愛するイサクを神にささげなさいと命じたのです。そこでアブラハムは薪を持って、イサクを連れて出かけます。そして祭壇を築き薪を乗せ、その上にイサクを乗せて今まさに彼を殺そうとした時に御使いがこう言いました。創世記22:12です。「あなたの手を、その子に下してはならない。その子に何もしてはならない。今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しまないでわたしにささげた。」と。見てきたように、この「神を恐れ」というのは神に対する畏敬の念、神に対する尊敬の念です。アブラハムはその愛する我が子をささげなさいという命令を受けた時に、彼はその命令に従っていこうとします。それはアブラハムが主をすべての主権者であると認め、そして崇め、疑いを抱くことなく絶対的な信頼を主に対して持っていたからです。新約が教えるように、たとえイサクを殺しても神は約束されたことを必ず守られるお方、ゆえにこのイサクを死からよみがえらせてこの約束を成就なさる。神は絶対に、絶対に約束を破ることはありません。

ですからこうして自分の愛する息子を喜んで主の命令に従ってささげようとした、この徹底した「服従」は彼が主を恐れていたことの証拠です。主を恐れていたことがこの徹底した「服従」によって証明されたのです。「神を恐れかしこむ」、神を心から敬うゆえに神が言われたことに対して、それを信じて喜んで従っていく。それがまさに「神を恐れ」た者の生き方なのです。神はあんなことを言っておられるけど私はそんなの信じられないとか、どうもきょうはあの神の約束を信じることはできない、そんな感じがしない。それは「神を恐れ」た者ではない。神様は絶対者であり、主権者であり、神はみこころのままにすべてのことをなさるお方であり、それを歴史をもって証明してこられたお方です。私たちがこの方を心から信頼して、この方に従うかどうか——。この従順こそが、この「服従」こそが神を恐れているかどうかを明らかにするものです。

我々はそうやってことばで言うことはできるのですが、神様は私たちをいろいろな境遇に置いてくださって、いろいろな形で私たちの信仰を訓練してくださる。だれのためかわかりますよね？我々のためです。我々はまだ自分のことをよくわかっていない。自分は結構優れた信仰者だと思っているかもしれない。でもいかに自分たちが弱く愚かな存在であるかを神はご存じであり、そのことを我々に悟らせるためにさまざまな機会を与えてくださる。そして感謝なことにそういう機会を通して我々がこの方に信頼を置いて生きることを教え続けてくださるのです。この後出てくる、ここの紹介されている女性たち、そしてペテロが勧めたこの妻たちに対する生き方。もしあなたが神の命令に喜んで従っていくな、神があなたに教えるその教えに喜んで従っていくな、神のみこころに喜んで従っていくな、人々はあなたを通してあなたが「神を恐れ」ていることに気がつく。もしあなたが自分の夫に無条件で従っていくな、夫たちはあなたが確かに「神を恐れ」る女性だということ、そのように歩もうとしている女性だということを見るのだと。

### 2) 清さを愛する者

「神を恐れ」る人たちというのは、神様に喜んで従おうとする者たちだということはわかりましたけれども、同時に「神を恐れ」る者というのは清さを愛する者たちです。ですから箴言の中でソロモンは繰り返しこの「恐れ」について教えています。例えば箴言3:7に「自分を知恵のある者と思うな。主を恐れて、悪から離れよ。」とあります。8:13にも「主を恐れることは悪を憎むことである。」、16:6にも「主を恐れることによって、人は悪を離れる。」と続きます。これはもう男女に関係なく、我々信仰者の

生き方です。そしてこのように主を恐れて、そして恐れるゆえに従順に清く歩む者たちに神様の祝福があります。こういう生き方に本当の満足や本当の喜びや感謝が伴うのです。そしてこのような生き方だけが神からの素晴らしい報いを、褒美をいただく生き方です。永遠に価値ある生き方です。あなたがご自分の夫に従っていくなら、夫はこのように生きているあなたを見るのです。信仰者の皆さん、あなたを通して主に働いていただきたい、主があなたを用いて働いていただきたいと、もしあなたが願うのであれば、あなたに必要なことは主がお喜びになることを行うことが必要です。主を愛して、その教えに従う者を主は祝して用いてくださる。「妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。」、これは主のみことろだと言うのです。

## B. 「真に美しい妻」 3－4節

そしてテキスト3－4節を見ると、本当の美しさについてペテロは教えます。「あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外面的なものでなく、むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。」、偽りの美しさという「外面的な」美しさです。「髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾る」、それは華やかかもしれない。人々の目を引くかもしれない。でも問題は、神の目を引くかです。人間はそういうのを見て、そこに価値を見出すかもしれない。問題は、神が価値を見出すかどうかです。みことばが教えるのは、そういう「外面的なもの」に我々信仰者はフォーカスを当ててはいけなと。もちろんそれは身だしなみがどうあってもいいという話をしているわけではありません。こういうものにフォーカス、焦点を当て重んじて生きる生き方。それが空しいと言うのです。

ですから4節で「むしろ」と言います。どうあるべきなのかを教えます。「柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい」と。「柔和」と「穏やかな霊」、飾るべき二つのことが記されています。

### 1) 「柔和」 マタイ5：5

「柔和」というのは「穏和な」、「優しい」ということです。新約に4回出てきます。この人は自分自身の権利を主張しないのです。強情ではないのです。押しの強い人ではないのです。このことばが「柔和」と訳されていない1カ所はマタイ11：29ですが、そこはイエス様が「わたしは心優しく」とあります。心優しい人です。いろいろなことがあったとしても、それに対して自分の権利を主張して、自分の考えを押し付けようとするような人ではないと。

### 2) 「穏やかな霊」 I テモテ2：2

「穏やかな霊」とあります。これは「静かな」とか「平安」と訳せることばで新約に2回しか出てきていません。いろいろ惑わされることや乱されることがあったとしても、その人はどんな時でも落ち着いて平安を持って対処できる人です。何かがあったらすぐに平安を失って心乱す人ではないのです。どんな時にも主を信頼しているがゆえに、主の与えてくださる平安を持って対処できる人です。

#### ・朽ちることのないもの：

この二つのことを挙げてペテロが言うのは、これは「心の中の隠れた人がら」とであると。しかもこれらは「朽ちることのないもの」、つまり永遠に価値あるものだと言うのです。というのはこの「朽ちる」というのは「不朽」や「不滅」、「腐敗しない」ということです。

#### ・神の前で価値あるもの I テモテ2：9、10

神の前で価値あるもの、大変高価なものだと言っているのです。本当の美しさと言った時に、何を着ているかではないのです。どういう内面を持った女性なのか——。ここに記されている女性は間違いなく霊的に成長した女性のことです。言い方をかえれば、御霊の実が成長している、そんな信仰者です。なぜなら愛も喜びも平安も寛容も親切も善意も誠実も柔和も自制も、すべて御霊の実であり、これらにおいて成長している人です。ですからペテロが言いたいのは、持ち物でもって自分を着飾るような虚しいことはやめて、信仰において成長しなさいということです。主イエス・キリストに似たものと変える、その働きを内住する聖霊がしてくださっているのですから、その聖霊においてしっかりと成長しなさい。みことばを正しく学んで、みことばに神の恵みをいただきながら従っていくこと、そうしてあなたが信仰者として成長していくならば、それこそがあなたにとって誇るべき美しさだと。I テモテ2：9で、今我々が見ていることをパウロはこう言っています。2：9－10「同じように女も、つつましい身なりで、控えめに慎み深く身を飾り、はでな髪のか、金や真珠や高価な衣服によってではなく、むしろ、神を敬うと言っている女にふさわしく、良い行ないを自分の飾りとしなさい。」と。外面的なことだけにフォーカスを当てるのではなくて、それよりもっと大切な内側にフォーカスを当てなさい。「神を恐れ」る者としてあなたが歩み続けるならば、あなたは本当に美しい人として成長するということです。

## C. 「敬虔な妻」 5－6節

最後に5－6節で敬虔な妻の話をします。

## 1. むかしの敬虔な婦人たち 5節

「むかし神に望みを置いた敬虔な婦人たちも、このように自分を飾って、夫に従ったのです。」「むかし」というのは旧約の婦人たちのことを指しています。「神に望みを置いた」とあるように、旧約の「敬虔な婦人たち」が「望みを置いた」対象は人間ではなく神だったのです。この「望み」というのは「希望」とか「期待する」ということです。しかも、この「望み」という動詞は現在形です。こうして彼らは継続して神のみに期待をしたのです。神のみに希望を置いたのです。ですから彼らはどうして？と神を疑いそうになっても、祈っていても答えがなく、神への信頼を失いそうになった時も、現実希望を見出すことができずに死を願うようなそんな時でも、彼らは主に信頼を置いたのです。主に希望を置き、主の約束が必ずなされることを信じて主のみわざを期待し続けたのです。だから彼らは「敬虔な婦人たち」なのです。この「敬虔」と日本語に訳されていることばは、「清い」という意味を持つことばです。英語の聖書では「清い」と書いてあります。この婦人たちは神の前を正しく歩み続けたのです。神に喜ばれるように生きているのです。ですから彼らは当然罪から離れて清いのです。そして、そのような歩みをしているゆえに神は彼らを祝してお用いになったのです。

「飾って」ということばが出ています。これは「きれいにする」という意味です。ですから主に対する敬虔な彼らの生き方が彼らが身に着けていた飾りだったのだと。ですからペテロはこの旧約の婦人たちを引き合いに出して、本当に彼らは内側の美しい女性たちだと。神のすばらしさを証するような女性たちだと。どんな時にも主に期待と信頼を置いて生きた女性たちだったと。だから彼らは神様の祝福を自分だけではない、夫に、家族にもたらす神の前に真に美しい女性たちだったと。すばらしいですよ。もちろんそれぞれが神の前を正しく生きていく、そんなことはきょうも見てきましたし、言うまでもなく皆さんご存じです。でもきょう我々が見ているように、妻が家庭にあって、夫がどういう夫であったとしても主を愛するゆえに、主を恐れるゆえに、主のみことばに従って、主を恐れながら歩いていくなれば、ごらんになったように神はそんな妻を家庭にあって大いに用いてくださるということです。もし我々が自分の夫に対して不平不満を言う時間があるのだったら、「神を恐れ」て神に従う歩みをあなたがすることによって、神があなたを通してメッセージを語ってくださると。

## 2. 敬虔な妻サラ 6節

### 1) 夫に服従した 6節

最後に6節のところでペテロは敬虔な妻サラのことを挙げています。「たとえばサラも、アブラハムを主と呼んで彼に従いました。」と。サラという人物はアブラハムの妻であり、主から大きな祝福を得た女性です。すばらしい模範です。「アブラハムを主と呼ん」だとして書いてあります。これはアブラハムへの尊敬を表したということです。彼らが住んでいたところから神が出て行きなさいと言われた時に、彼女は「どんなところへ行こうと言うのだろう」と頭の中で思ったでしょう。どこに行くかもわからないし、新しいところがどんなところかもわからない。人間的に考えたらいろいろな不安があったでしょう。しかし、彼女はアブラハムを尊敬して夫に従って行くのです。しかも「主と呼んで」の「呼んで」という動詞は、また現在形が使われています。つまり彼女は継続して夫に対して尊敬を示し続けたということです。

### 2) 模範に倣うようにとの勧め

#### (1) 常に神に信頼を置く

サラの話をして、「あなたがたも、どんなことをも恐れないで善を行なえば、サラの子となるのです。」と言います。「どんなことをも」、実はこのことばは「ぞっとするような恐れ」や「とても恐ろしいこと」、「とても怖いこと」という意味です。ですから、たとえそのような怖い、恐ろしいことがあったとしても、「恐れないで」と言うのです。例えば今、将来や健康に対する不安、お金の心配があったり、いろいろな不安をもたらすものが存在しています。しかしどんな時でも、どんなことでも、主を信頼し続けるということです。恐ろしいと思うことがあったとしても、神があなたに望んでおられることは、サラがそうして生きたように、常に神に信頼を置くことです。

#### (2) 善を行う

そして二つ目は、どんな時でもあなたは「善を行な」っていきなさいと言います。これも現在形ですから継続してやっていきなさいと。常にどんな時でもどんなことが起ころうとも、主を信頼して主の前に正しいことを行い続けていきなさいと。

その時あなたは「サラの子となる」と。すなわち彼女に与えられたと同様の祝福を得ることになると言っているのです。このような妻は夫にとって大きな祝福だと。未信者の夫はみこころならば救いへと導かれていくでしょう。でも少なくとも言えるのは、すばらしい最高のあかしがその家庭でなされるのです。あなたが主に従って、主を恐れて、主を愛して、主のみことばに従って成長していくならば素晴らしいあかしがその家庭の中でなされていく。彼らはあなたを通してキリストを見るからです。また信

者の夫は大いに祝されるのです。

箴言 18 : 22 「良い妻を見つける者はしあわせを見つけ、主からの恵みをいただく。」とあります。夫も責任があること、妻も責任があると。私たちは身近な者たちに対して祝福をもたらす者になりたいと願いますよね。特に我々は今夫婦のことを見えています。そしてペテロはここで特に妻についての教えを与えました。あなたはあなたの家族にとって大きな祝福となるのだと。我々がもう既に見てきたように、「神を恐れかしこむ清い生き方」を継続するならば、神はあなたを喜んで使ってください。そのことを願いながら、旧約の敬虔な婦人たちは生き、用いられたのです。新約の多くの婦人たちもそうだったでしょう。今もそのような婦人たちがたくさんおられる。ということは、神は今からでもあなたをそうやって用いてくださるということです。

どうか信仰者の皆さん、あなたの責任は主の助けをいただきながら主のみことばを信じ、その教えに従うことです。隠れたことを見ておられる、隠れた思いをご存じである神を恐れながら心から主に従い続けていくことです。あなたの成長があなただけではない。あなたの家族にも祝福をもたらすのだと。そしてこんな生き方こそが永遠に価値ある生き方なのだとペテロは教えてくれます。この日におひとりひとりが吟味なさって、神のみこころであるこのような歩みを始めてくださることを心から願います。